

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記13> 標準原価計算

全3枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

- 137回 標準配賦率・配賦額・差異分析
- 127回 原価カード・消費量計算・差異計算
- 126回 仕掛品と損益計算書

全体理解していれば満点取りやすい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

収録が遅れ気味でスミマセン

また、本社工場会計の最初にUPした動画で、電車の音待ちのゴルフ素振りが入ってました（恥ずかしい）たぶん20人前後の方が見られたと思います（放送事故扱いにしました）・・・

ところで、今日から第5問で頻出の標準原価計算と直接原価計算に入ります。

工場長の立場（標準原価計算）、経営企画部の立場（直接原価計算）にかかります。

頭の切り替えが大事です。

頑張りましょう

今回は収録時間が長いです

36分までが前半

残り48分が後半という形で聞いて下さい

2015.1.25の段階では記帳部分（このレジユメの7ページ）は説明できていません。

2月前半に詳細論点という事であらためて収録させていただきます。

1. 標準原価計算とは

原価計算基準で規定されている計算方法は実際原価計算と標準原価計算だけです。

実際原価計算には予定価格による計算を含むことから、両者の相違は消費量を実際量で計算するか、「科学的・統計的調査に基づいた予定量」で計算するかの違いである

少し難しい概念ですが、「そんなものか」程度で結構です

テキストを読んだ感想はどうですか？どのテキストも掲載されている内容は同じですね

とりあえず流れを簡単に動画で解説します。その上で、詳細をみていきましょう

原価標準の設定

生産量の確認

標準原価の計算

実際との差異分析

記帳

では、ストーリー仕立てで確認していくことにします

2. 原価標準の設定

簡単にいうと目標単価です。この製品を1つ作る為には材料費や労務費そして製造間接費がいくらかかるかを経営会議で決定します。この原価を元に営業部は販売単価を決めますから間違えると経営に多大な影響を与える事になります。

社長「勝手にピンに近づくゴルフボールの目標単価を決めよう」

営業部長「社長、他社にない製品なのですが、できるだけ1個300円前後で販売したいと思います」

社長「工場長、どうかな」

工場長「生産量にもよると思います。昨年の標準仕様品に基づいて計算します。また、1,000,000個売れる前提で計算してみました。それによると、1個当たりの目標原価は材料費100円、直接労務費50円、各種の製造間接費が100円です」

社長「わが社の値入率は40%だね。という事は売価は350円か。1,000,000個売れて5,000万の粗利か」

財務部長「社長、石川遼選手にCMをお願いするという事を営業部から聞いていますが、5,000万以上かかります。」

社長「営業部長、売価をあげるか、販売量を増やすか、どちらかを考えて欲しい」

営業部長「石川選手が活躍すれば2,000,000個も夢ではないと思いますが」

工場長「2,000,000個なら材料の仕入価格や、間接費負担が低くなるので、材料費80円、労務費50円、製造間接費は60円未満になります」

社長「よし、じゃあ石川選手の活躍にかけてみるか」

全員の心「ギャンブルみたいだな・・・大丈夫だろうか？」

そんなこんなで、原価標準が決まりました。

1 ダース価格で作成してみました。



ボール1ダースの原価標準

直接材料費	80円×12g=960円
直接労務費	200円×3h=600円
製造間接費	225円×3h=675円
合計	2,235円

最終生産量は2,016,000個に決定しました。その上で、月間基準操業度（直接作業時間）の計算をしました
 $2,016,000 \div 12 = 168,000$ ダース（年間の生産目標）
 $168,000 \text{ ダース} \div 12 = 14,000$ ダース（月間の生産目標）
 $14,000 \times 3\text{h} = 42,000$ 時間

新規投資の機械の生産性を考慮して41,600時間を基準操業度に決定しました。

3. 生産量の確認と目標原価（標準原価）の計算

1か月が経過しました。工場・営業部の頑張りもあり順調にスタートしました。
生産月報があがってきました。実績データですね。

生産量は13,000ダース、直接作業時間の集計は38,500時間でした

直接材料費は $85 \text{ 円} \times 157,000 = 13,345,000$ 円
直接労務費は $210 \text{ 円} \times 38,500 = 8,085,000$ 円
製造間接費はトータルで9,560,000円
合計で30,990,000円でした

さて、工場長の頭の中はどうなっているのでしょうか？

1ダースで2,235円が目標単価

13,000ダースつくったので29,055,000円。これが標準原価ですね。

実際との差額は1,935,000円の使いすぎだ（不利差異）うわー！どうしよう？

ここで慌てては工場長は務まりません。

工場の責任がどの程度あるのかを項目別に確認する事にしました

直接材料費： $80 \text{ 円} \times 12\text{g} \times 13,000 = 12,480,000$ 円

直接労務費： $200 \text{ 円} \times 3\text{h} \times 13,000 = 7,800,000$ 円

製造間接費：9,360,000（変動費3,900,000）＜基準操業度における予算＞

すべての項目で予算オーバーですね。では、さらに詳細な分析を行いましょう

4. 差異分析

皆さんが工場長だったら「どういう言い訳」を考えますか

言い訳は嫌いだ！は恰好いいかもしれませんが、それでは可愛い部下の昇給・賞与をが減額される可能性があります。

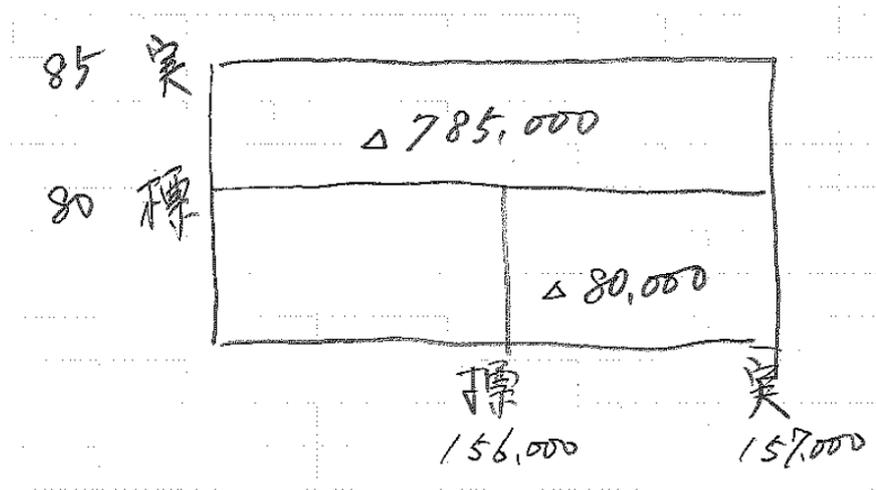
しっかり原因を追究して、工場側の責任部分を明確にして会議に臨みましょう

①まずは材料費からです

目標は $80 \text{ 円} \times 12\text{g} \times 13,000 \text{ (156,000)} = 12,480,000 \text{ 円}$

実際は $85 \text{ 円} \times 157,000\text{g} = 13,345,000$

価格は工場の責任ではないですね。という事は消費量の+1,000g分が工場側の責任になりそうですね

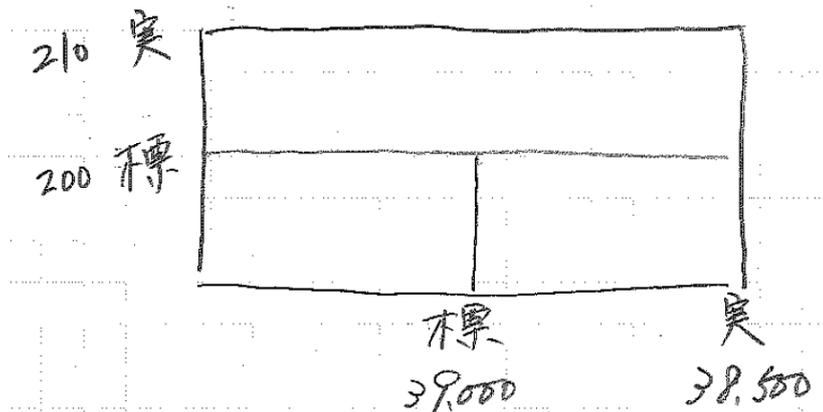


②続いて労務費です

目標は $200 \text{ 円} \times 3\text{h} \times 13,000 \text{ (39,000)} = 7,800,000 \text{ 円}$

実際は $210 \text{ 円} \times 38,500 = 8,085,000 \text{ 円}$

価格は微妙ですが（シフトを組むのが工場長なら工場側の責任も考えられます）、日商簿記 2 級では単価変動は工場側の責任とは考えません。時間は？これは工場が頑張ったのでしょうか。



③では最後に製造間接費を確認しましょう

まずは、予算差異からです

個別原価計算を思い出して下さい

変動費の予算は $3,900,000 \div 41,600 = 93.75$ 円 (1時間あたり)

固定費の予算は $5,460,000$ です。

このあたりは動画で解説します

予算許容額は $93.75 \text{ 円} \times 38,500\text{h} + 5,460,000 = 9,069,375$ 円

予算差異は $9,069,375 - 9,560,000 = 490,625$ 円

操業度差異は、基準操業度に満たない部分でしたね

基準操業度 $41,600$ 時間 実際操業度 $38,500$ 時間 $3,100$ 時間の操業ロスがあったわけですね

固定費を時間単価にすると $5,460,000 \div 41,600 = 131.25$

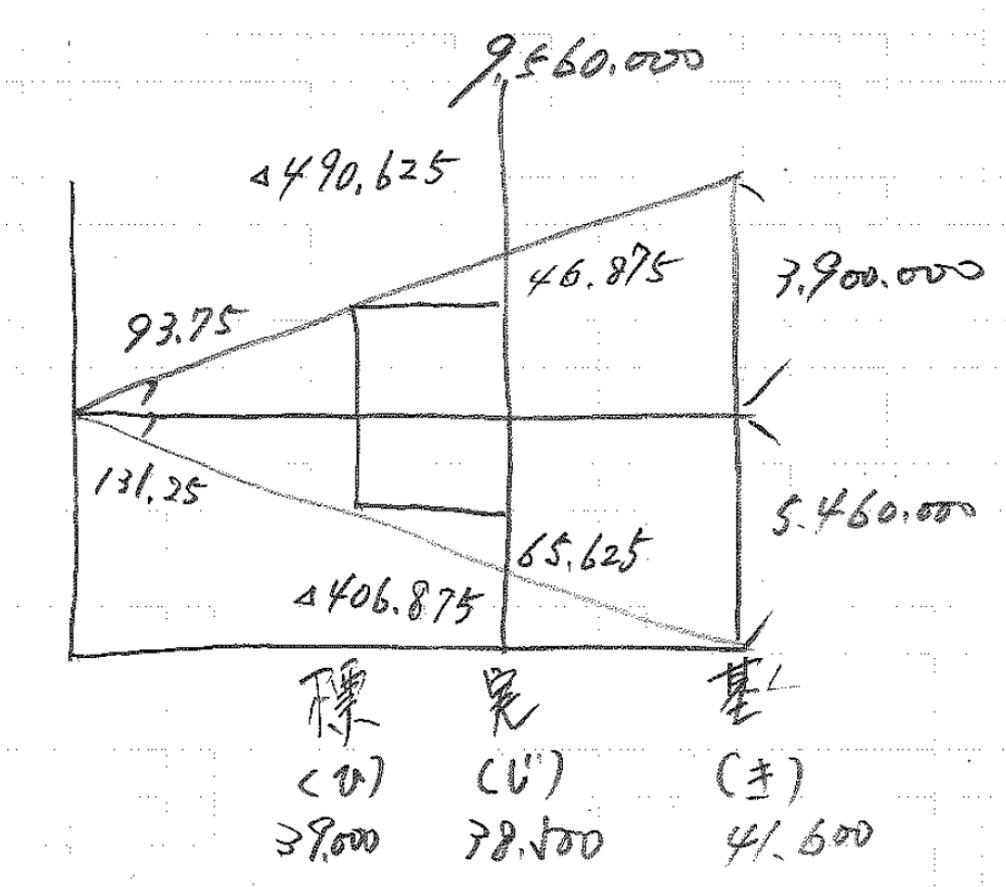
操業度差異は $131.25 \times 3,100 = 406,875$ になります

最後は能率差異です

$13,000$ ダース作る時の目標時間は $39,000$ 時間ですね。でも $38,500$ 時間ですんだ。これは作業能率が良かった差異ですね。能率差異と呼びます。

変動費部分は $93.75 \times 500 = 46,875$ 、固定費部分は $131.25 \times 500 = 65,625$

ではシュラッター図で確認してみましょう。



5. 記帳

パーシャル（部分）プランとシングル（1種類）プラン

処理方法は簡単です

仕掛品勘定の当月投入額を実際額で記入するか、標準額で記入するかの違いだけです。

記帳方法によって、差異の金額や完成品の金額が変わる訳ではありません。

差異の記入場所（発生場所）が変わるだけです。

今回のデータは期首・期末がなかったので別のデータで確認しましょう

原価カード	生産量	実際金額
直接材料費 100 円 × 3k = 300	月初 100 (0.4)	直接材料費 350,000
直接労務費 200 円 × 2h = 400	当月投入 1,000	直接労務費 500,000
製造間接費 300 円 × 2h = 500	完成 800	製造間接費 600,000
合 計 1,200	月末 300 (0.8)	



満点！打ち抜くわ

佐那さん、その意気ぜよ
なかよし簿記講座の動画も見た
ほうが良いきに

